

## 3L-04 目的指向の「情報リテラシ」教育の発想と展開

### 総論

魚田勝臣, 大曾根 匡, 松永賢次, 宮西洋太郎  
専修大学 経営学部 情報管理学科

#### 1. はじめに

大学などの教育機関では、読み書き話すことや文献を収集したり情報を分析するといった、学生としてごく当たり前の能力が不足していて、ゼミナールや卒業研究、就職活動などで困っている。これらはまさしくそれまでの教育における情報リテラシの欠如によるものである。一方でコンピュータとコミュニケーションシステムを利用した情報ツールが発達し、それらを教育する必要に迫られている。

われわれの「情報リテラシ」教育の基本方針は「目的指向」である。すなわち、単にアプリケーションソフトの使い方を教えるのではなく、ある目的を達成するために必要な手段、すなわち、情報の収集、情報の分析、情報の発表などの手段を身につけさせることを目的とした。本論文では、その立場で展開した情報リテラシ科目の全体像を述べる。

#### 2. 情報リテラシとして学ぶべき事柄

個人の情報活動には、問題の発見、情報の収集、論理的な分析や考察、情報の創造、討論、意思決定、報告書の作成、発表がある。このような仕事を効果的かつ効率的に行うための手段としてコンピュータやコミュニケーションシステムなどのツールを学ぶ。ニーズからの発想を旨とし、シーズからの発想を戒めることを基本的な姿勢とする。

An Object-Oriented Education Plan for Information Literacy.

Katsuomi Uota, Tadashi Osone, Kenji Matsunaga  
And Yohtaro Miyanishi,  
Senshu University

#### 3. 情報リテラシ教育の展開

情報リテラシとして最も大切なことは、情報を収集し、処理して自分の考えとしてまとめて表現することである。本来なら大学までにかなり上達しているべきであるが、残念ながらそれまでの教育で最も欠けているものの一つと言わざるを得ない。そこでこの科目での最低限の到達目標を、

- ① 学ぶべき情報リテラシの全貌を理解させる、
- ② 自分がこうした能力に欠けていて学ばねばならぬことを認識させる、
- ③ 学び方を教え、卒業研究やゼミでの訓練につなぐ、

ことにおいて、カリキュラムを組み立てている。

表1にこのような考えで展開したシラバスを示す。個人またはグループで決めた一貫したテーマのもとに、各回に完結した仕事を与えて解決させることおよび情報ツールについては自習を基本とすることを方針としている。そして、仕事の最終目標を正式のディベートに置き、それまでの情報活動については、ディベートの命題に関連する事項とし、仕事に一貫性を持たせることにした。

#### 4. 教科書の執筆と教材の制作

われわれはこの科目の重要性に鑑み、すべての学生が情報リテラシ科目を受講すべきであると考えている。その実現のために、ゼミナールや卒業研究を担当する教員であれば誰でも実施できるように教科書と講義用資料を準備することを目指した。つまり、情報リテラシ科目はコンピュータの専門家が担当するという固定観念から脱却したいと考え、つぎの3点を進めている。

- a. 教科書とそれで授業を進める先生用の教材

をセットにして準備する

- b. 教材はスライドとそのノートおよび問題集（一部解答例つき）とする
- c. 教材は本書を教科書として採用された先生に頒布する仕組みを出版社（共立出版の予定）に備える
- d. アンケート調査などを適宜実施して、先生方のご批判を得て教科書と教材を改善する。

以上の方針のもとに専修大学経営学部において1999年度前期に準備し、後期から講義を実施した。今回は3展開であるが、2000年度に6展開とし、順次拡げて希望するすべての学生が受講できる態勢を作るつもりである。

### 5. おわりに

学生の考える力あるいは考えようとする意欲の低下が見られる。情報リテラシをこの傾向に歯止めをかけ、正常に戻すのに寄与できる重要な科目の一つと位置づけている。

今危機に瀕しているのはコンピュータリテラシ教育ではなく、日本語の読み書き話すことに始まる情報リテラシ教育である。問題の本質がそこにある。この問題に関して議論が沸騰することを期待する。

謝辞 この研究は専修大学情報科学研究所から研究助成を受けて実施した。感謝の意を表する。

### 参考文献

- 1) 魚田勝臣: ニーズから発想した情報リテラシ教育の展開, 平成11年度情報教育問題フォーラム pp.25-26, 1999.6.
- 2) 高橋綾子, 魚田勝臣: 目的指向の「情報リテラシ」教育の発想と展開—「基礎」教育における方法—, IPSJ 第60回全国大会 3L-5, 2000.3.
- 3) 松永 賢次: 目的指向の「情報リテラシ」教育の発想と展開—「情報収集」教育における方法—, IPSJ 第60回全国大会 3L-6, 2000.3.

表1 情報リテラシのシラバス

回	テーマ	授業
第1講	社会における情報システムの重要性とツールの基礎 (その1)	情報リテラシの重要性 コンピュータ演習について パソコンとネットワークの基礎
第2講	社会における情報システムの重要性とツールの基礎 (その2)	自習のための基本知識と基本演習 (その1: OS) 情報倫理と著作権 演習で使うツールの概要と学習方法
第3講	仕事の手順と行動計画・記録の仕方を学ぶ	自習のための基本知識と基本演習 (その2: メモ機能) 行動計画の重要性 メモの取り方と活用方法, 整理の仕方 PDAの概要と機能
第4講	情報収集・報告書作成への導入	ブラウザの使い方 メールの交換 (3人グループでテーマを決めてメールの交換)
第5講	文献情報の収集 (図書館)	図書館で情報を探す (図書館での講義と演習)
第6講	インターネットで情報を探す	ディレクトリ, 単語検索の使い方 ブックマークの使い方
第7講	報告書の作成	報告書の作成 良い報告書の条件 ワープロの使い方
第8講	情報リテラシと問題解決	ワープロソフトを利用し, 自ら選択したディベートテーマについて, 問題解決プロセスを整理する
第9講	情報の分析	言語モデルによる情報分析 数値モデルによる情報分析
第10講	プレゼンテーションとは	プレゼンテーションの説明 プレゼンテーションの準備の説明 箇条書き技術
第11講	ビジュアルな表現と口頭発表の注意点	ビジュアルな表現 口頭発表の注意点
第12講	発表とディベート	グループ毎のテーマについて電子スライドを用いた口頭発表 ディベートについて学び, ビデオ視聴し評価させる

- 4) 宮西洋太郎: 目的指向の「情報リテラシ」教育の発想と展開—「情報分析」教育における方法—, IPSJ 第60回全国大会 3L-7, 2000.3.
- 5) 大曾根 匡: 目的指向の「情報リテラシ」教育の発想と展開—「プレゼンテーション」教育における方法—, IPSJ 第60回全国大会 3L-8, 2000.3.